

## 湯の湖・湯川釣魚者の動向（2006 年度）

独立行政法人水産総合研究センター  
中央水産研究所内水面研究部

### 1. 背景と目的

湯の湖・湯川は奥日光国立公園内に位置し、その周辺は元来魚類の生息しない水域であったと言われている。湯川には 1902 年にカワマスが、湯の湖には 1916 年にヒメマスが放流されたのが記録として残されている最も古いものであり、以後、主にマス類を対象としたスポーツフィッシングの場として多くの釣り人に親しまれてきた。管理釣り場にとって近年の釣りブームが追い風になる反面、その志向は多様化・分散化しており、釣魚者増につながっているのかどうかは不明である。本調査ではマス類を対象とした内水面冷水域における遊魚管理技術の開発につながる知見を得るため、平成元年以来の湯の湖・湯川における釣魚者数の変動を調べた。

### 2. 調査方法

平成元年度から 18 年度までの湯の湖・湯川の釣魚者数を調べ、近年の釣魚者数の変動動態を検討した。なお、湯の湖においては平成 15 年度から小学生以下が無料になっており、また湯川においては平成 14 年度に C&R が導入され、平成 16 年度に無放流が開始されている。

### 3. 結果

湯の湖・湯川における年ごとの釣魚者数を図 1 に示す。また、平成 2 年度から 5 年毎の釣魚者数の増減をパーセント表示した（図 2）。いずれも全国のマス遊魚者数の推移（漁業センサス）もあわせて示した。

湯の湖においては平成元年から釣魚者数は増加傾向を示したが、平成 8-9 年度の約 25,000 人をピークに減少し、18 年度には 10,000 人程度にまで低下した（図 1）。湯の湖における釣魚者数の増減の傾向は全国統計値と類似したものであった（図 1, 2）。一方湯川においては平成元年度から 18 年度まで釣魚者数は増加し続けていることが明らかとなった（図 1, 2）。

図 1. 湯の湖・湯川および全国（マス類）の釣魚者数の推移

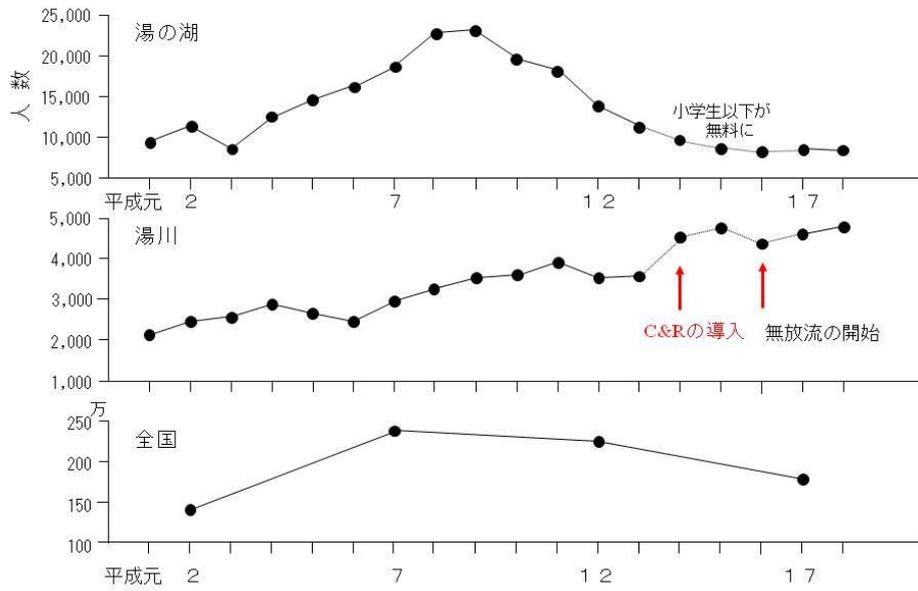
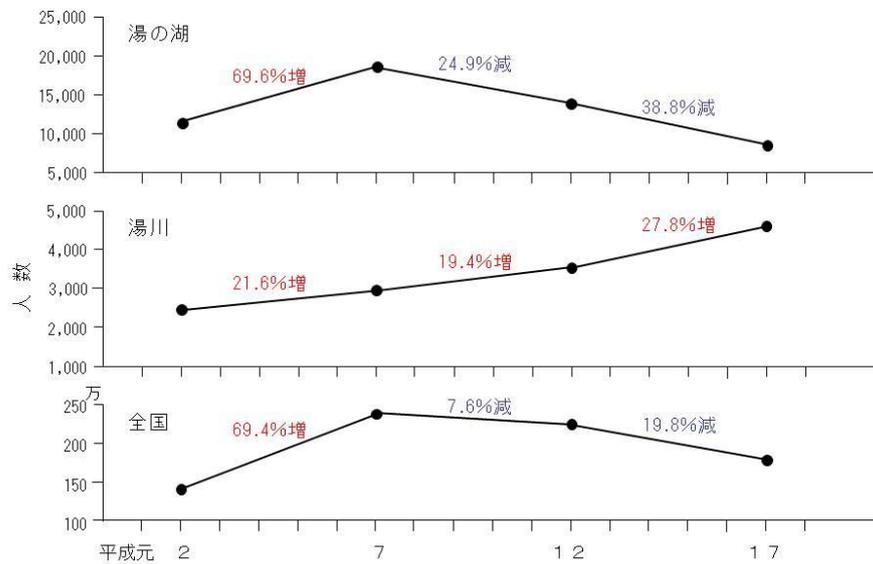


図 2. 湯の湖・湯川および全国（マス類）の釣魚者数の5年毎の増減



#### 4. 考察

図2の5年毎の統計に見られるように、全国的に見て平成7年まではマス類釣魚者数は69.4%の増加を示したが、その後漸減している。この傾向は湯の湖において顕著に現れており、平成18年度には平成元年のレベルにまで低下した。一つの原因として、これは釣魚者の志向が「釣り堀」的な釣りを敬遠しつつあることの影響と考えられる。一方、湯川においては、全国的に釣魚者数が減少する中で、平成元年から増加傾向を見せ続けている。これは近年のフライブームの他にC&Rの導入や成魚放流の停止が天然魚を求める釣魚者の志向に合致したためと考えられる。本年の結果では湯の湖、湯川ではそれぞれ対照的な釣魚者動向となったが、湯の湖では釣り場へのアクセスが容易、比較的初心者でも釣りが楽しめる、などの利点があり、今後、湯の湖・湯川それぞれの特徴を生かした遊魚管理を考えていく必要がある。

#### 5. 付記

本報告は平成18年度湯の湖・湯川調査研究推進協議会における研究報告に基づき作成した。